

入職のご挨拶

初めまして 乳腺外科の伊波茂道です

このたび縁あって検診センターの乳がん検診および乳がん精密検査外来を担当させていただくことになりました。何卒宜しく願い申し上げます。

出身は沖縄県で、昭和 59 年 1984 年岡山大学を卒業後、広島市立病院機構 広島市立広島市民病院および一般財団法人倉敷成人病センターで外科研修を行った後、昭和 63 年 1988 年から半年間特定病院機構愛知県がんセンターで乳がん診療について研修しました。昭和 64 年 1989 年倉敷成人病センターへ帰り、川崎医科大学から招聘した乳腺甲状腺外科妹尾亘明教授のご指導のもと倉敷成人病センターで乳腺外科を始めました。以来、乳腺外科一筋にやっけてまいりました。1997 年乳癌検診学会にマンモグラフィ精度管理中央委員会が設立され、マンモグラフィ検診の読影医養成目的に講習会が始まり 1999 年第 1 回指導者研修会に合格し、2000 年 50 歳以上の乳がん検診にマンモグラフィが導入されると、講師の一員として全国のマンモグラフィ講習会を回りました。

日本の乳がん罹患は 40 歳代後半にひとつのピークがあるため 2004 年には 40 歳代へのマンモグラフィ検診導入が追加されましたが、同時にマンモグラフィ検診の限界も指摘され、2007 年厚生労働省第 3 次対がん総合戦略研究事業（がん対策のための戦略研究）課題 1「乳がん検診における超音波検査の有効性を検証するための比較試験」Japan Strategic Anti-cancer Randomized Trial (J-START)が行われました。この研究には倉敷成人病センターとして、また 2008 年からは岡山大学福クリニック（旧三宅おおふくクリニック）として参加し、個人的にも乳房超音波読影講師として各地の講習会に参加しました。

2008 年三宅おおふくクリニックに赴任してからは、婦人科に併設した乳腺クリニックとして女性の検診を中心に、がん診療拠点病院と連携して乳がんの治療を行ってきました。2008 年から 2022 年までに 1093 例の乳がんを診断、282 例の手術しました。

総社市には市内に乳がん検診ができる施設がなく、倉敷市まで足を運ぶ必要がありました。企業検診で受けることのできる方はよいとして、現在の乳がん罹患のピークである 60 歳代後半の方々の多くは退職され市町村の乳がん検診を必要とするでしょう、その受診率の向上と、ひいては総社市の女性の乳がん死亡率の低下に寄与できればと願い、早期発見・早期診断・早期連携治療を目指して精進する所存です。

専門 乳腺外科

資格 日本外科学会専門医 日本乳癌学会乳腺専門医 日本がん治療認定医機構がん治療専門医 日本乳がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ読影認定医 同機構乳房超音波医師試験合格医